

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500097		
法人名	医療法人社団 千寿会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 みずばしょう		
所在地	登別市登別東町4丁目48番地1		
自己評価作成日	平成25年12月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500097-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193500097-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=021</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月に認知症グループホームに併設し、市内で唯一の小規模多機能型居宅介護事業所として開設しました。  
登録者の約7割は近隣の方で利用をきっかけに小学校の同級生が再会するといった場面もありました。  
医療面では、経営主体の三愛病院がバックにありますので、迅速な対応が可能であり、本人・家族の安心に繋がっているのではないかと思います。  
スタッフは常に利用者の生活を意識し、一人ひとりにあった環境をつくり、想いを共有し、お互いに支えあえる関係づくりに努めています。  
また、利用者一人一人が自らの力を発揮し、想いを自由に表現できるよう、考え、関わり、本人の”心の声”を聴く事を大切にしています。  
今後、さらに地域との交流を広げ、人や社会とのつながりを実感できる事業所を目指していきたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とした複数の福祉事業を展開している運営法人が地域のニーズに応え、登別市唯一の事業所を展開して1年が経過して居ます。短期間ながら地域の方々の理解と支援をいただき、さらに職員の質の向上に向けてのたえない努力と相まって、事業所と地域は強い連携が構築されています。利用者の何気ない言葉を捉え、散歩や買い物に行ったり、桜見物やお祭りを楽しんだり、会話でコミュニケーションを取るなど利用者の世界観を共有しています。職員は、事業所での家事全般を担って下さる利用者の方々への労をねぎらう日帰り温泉ツアーを企画し、他の利用者の方々にも声をかけ一日を楽しんでいます。職員は、利用者の生活の延長上に事業所があるとの認識の下、さらなる質の確保に向けて邁進している「小規模多機能型居宅介護事業所 みずばしょう」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年、スタッフ自ら事業所のケア理念を作成しフロアに掲げている。自ら作成した理念なので意識し理解して日々のケアに活かしている。	地域との支え合いの中で利用者が安心して暮らせる支援を謳った基本理念に加え、5項目からなるケア理念を職員全員で作成し実践に努めています。今回の自己評価への取り組みは、日頃の業務を振り返る機会となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内のイベントやお祭りに参加している。また、町内会に参加している利用者もいるため送迎の支援の際には挨拶を行うようにしている。みずばしょうの利用をきっかけに町内会へ行くようになった利用者もいる。	町内会行事(新年会、祭り等)や事業所行事(祭り等)の相互交流は活発に行われています。七夕祭りでの子供達や、近隣の中・高校生の訪れは、利用者の楽しみになっています。職員は、利用者の送迎時の折に近所の方々と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所、地域包括支援センターなどが主催で行っている「はいかい模擬訓練」に事業所として協力し参加している。運営法人の認知症疾患医療センターが主催する家族教室に施設長が講師として参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設のGHと共同で開催している。その中で取り組み状況を報告し、町内会長や民生委員をはじめ地域の方の協力ももらいながら、行っている。利用者の家族も毎回出席いただいている。	会議は、併設のホームと合同で多様なメンバー構成の下、定期的で開催しています。事業所の活動報告後に情報や意見交換が行われ、質の向上に活かしています。参加家族からの要望で、全家族に感染に関するマニュアルを配布しています。	議事録の整備(利用者の活動内容の明記、事業所としての利用者や家族の区分、分かり易い事業所関連の記載)と課題(事故やヒヤリハット等)の公表、職員の参加等の検討に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へ提出する書類等は持参し担当職員と接する様に行っている。	管理者は介護認定審査員を担い、また市や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加されるなど、協力関係が築かれています。市主催の徘徊高齢者等捜索訓練に参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外へ行きたい時には出かけられるような対応を行っている。今後は定期的に研修会や勉強会などを実施していきたい。	日常業務マニュアルに身体拘束の具体例を記載し、さらに研修会や勉強会で理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めています。業務日誌に職員の健康状態の欄を設け、体調管理への配慮があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などは全身状態の確認をしているほか、利用者の表情や言動から変化を察知し見過ごさない様注意している。また、事業所においても変化があった場合は小さなことでもスタッフ内で話し合う事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業等の該当する利用者が今の段階ではないが、制度について学ぶ必要がある。今後は研修会など学ぶ機会があれば積極的に参加して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、施設長や計画作成担当者から十分な説明を行い納得を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡ノートを活用しご家族からの要望をいただいております。また、送迎時の時にも要望や意見を頂くこともあり、スタッフから計画作成に申し送りされすぐに対応している他、運営推進会議のなかでも意見や要望を頂いている。	家族に利用者のサービス時の様子を連絡ノート、送迎時、家族来訪時、居宅訪問時及び電話等で報告をし、要望等を傾聴しています。また、退去した家族からの要望で、それまでの連絡ノートをコピーして渡しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い、スタッフ間で意見や疑問など、話し合える機会を設けている。それ以外でも必要時にはスタッフ同士話し合う時間をつくっている。	日常業務や会議、個人面談等で、職員の意見や提案を受け止めています。企画や課題等は、職員全員で取り組んでいます。利用者の入浴時の不安解消のため、浴室の環境整備を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人が自分の目標を設定し達成に向けて取り組んでいる。取り組み状況などは施設長が個人面接を行い確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外での研修会の情報をスタッフに伝達しているが、参加するスタッフが少ないと感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービスの事業所と共同でも勉強会や研修会を行い、情報交換や交流する機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、本人や家族の困っている事などに耳を傾けている。 また、家族からの依頼があった場合、すぐに訪問し話を聞いて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	送迎時など玄関先でご家族から要望などを話される事も多い。ケアマネだけではなく介護職員もご家族と関わる事が多くスタッフ一人一人がしっかりした対応できるように意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人と関わり、その時の状況に合わせて本人の意向に沿った支援を行っている。 場合によってはすぐに訪問を開始するなどの対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に笑ったり一緒に泣いたり一人一人の思いを知り何事も共にする事を意識しお互いに支えられる関係づくりに努めている。 時折利用者に励まされたり教えられたり、支え合っていると実感できる場面も多くある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に訪問し家族の想いを聴いている。また、常に連絡ノートを確認し現在の状況の把握に努めている。送迎時は1日の様子を家族に伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その人がこれまで築き上げてきた人との関係や交流を断ち切らないようにケアプランに取り入れ支援している。	大半が近隣に居住しているため、町内会や商店、病院、理美容室とは馴染みの関係にあり、家族の協力を得ながら支援しています。散策時には、街並みの変化を話題にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、なじみの関係が出来ているが、その時の状態や気分の変化があるのでスタッフが間に入って見守りしたり楽しく自由に過ごせるようスタッフで話し合い、環境作りなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	登録が終了してもいつでも事業所に立ち寄ってもらえる様に声を掛けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情などから本人の想いを確認し支援に繋げている。	サービス時で発した言葉や表情を記録に残し、利用者の思いや要望の把握に努め、介護計画にも反映しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で得た情報などセンター方式に記録し活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の今持っている力、できる事を見極め支援に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの聞き取りを基に柔軟な対応を心掛けている。毎日の関わりの中でアセスメントを行い、その時の現状に合わせた介護計画を作成している。	利用者や家族から生活に対する要望を傾聴し、さらに個別の記録を参考に地域活動への参加機会も含め、利用者の有する力を最大限発揮出来る介護計画を作成しています。	介護計画に沿った個別の記録が十分ではありませんので、連動性ある記録の整備により、確認や見直し時に生かせる取り組みに期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はいつでも確認できるようになっている。利用者の言葉やその時の思いなど他のスタッフにもわかるように記録している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の利用者や家族の状況、要望に応じて柔軟に対応している。家族からの依頼にもすぐに対応し安心に繋げている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるか情報収集に努めたい。今後はボランティアの活用も行っていきたい。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時には受診の対応を行い、医師へ状況を報告している。今後も主治医と連携を図り、早期対応に努めていきたい。家族にも定期受診の確認を行っている。	通い、宿泊、訪問時に、家族と連携を取りながら、かかりつけ医や協力医療機関へ定期・緊急時の受診支援をしています。情報を共有し、健康管理を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があればすぐに看護師へ報告し早期対応に努め、受診が必要と判断した場合はご家族に連絡し受診へとつなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況など把握できるよう病院関係者や家族と連絡をとったり直接利用者に会いに行き確認している。また、退院等の調整も行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、終末期の経験はないが、今後、重度化、終末期について理解し本人、家族と早い段階で話し合い対応できる体制を整えていきたい。	看取りの経験ありませんが、日頃から利用者との関わりの中で、後悔しない支援の構築と重度化や終末期に向けた取り組みを検討しています。	職員と検討事項について十分に協議され納得が得られた後は、職員の心理的負担の配慮や各サービス時での対応指針、同意書の整備への取り組みに期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修など参加しているが、全スタッフではない。今後は事業所内で行っていく必要があると感じている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の協力を得ながら定期的に避難訓練を実施し、避難、誘導、通報の確認を行っている。災害時には法人内の応援体制も整っている。	消防署の指導の下、ホームと合同で日中・夜間想定での避難訓練を実施しています。地域の方には事業所外での見守りをお願いしています。津波も含め災害時は、法人内での対応としています。職員は、登別連合町内会主催の大津波避難訓練に参加しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人、自尊心を傷つけないよう声掛けなど常に気を付け対応している。	職員の心得として「私達は、人が見ている時も見えない時も、いつも変わらない対応を行います」との行動指針を示しており、職員は実践に努めています。排泄や入浴時は、羞恥心に配慮があります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身の思いや希望が出しやすいよう配慮し関わっている。自己決定が難しい方についても、本人の思いを理解し考え対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらで日課を決めず、一人一人のその日の過ごし方を優先し希望を聞いている。その希望にあった過ごし方ができるようスタッフも柔軟に臨機応変に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを尊重しその人らしく過ごせるよう関わっている。新しい服を着てきた時や髪を切った時などはさりげなく声掛けしている。また、更衣の際はどの服を着るか本人に選んでもらうよう声掛けしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、調理をしたり、スタッフだけではなく一緒に行えるように努めている。今後は食事に関する一連の作業がつながる様な支援をしていきたい。	食材は宅配されていますが、献立から後片付けまで利用者の得意分野を發揮していただき、食事を共にしています。時には、食材を購入したり菜園での野菜を活用し、献立に変化をつけています。前庭でバーベキューやお茶会も楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄チェック表にて食事・水分量・排泄がわかるようになっており、一人一人の排泄パターンを把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い習慣にしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々に合わせた支援を行っている。おむつを使用しているも基本的にはトイレで排泄ができるよう支援している。意思表示が困難な方でもトイレのサインを見逃さずトイレでの排泄につなげている。	一人ひとりの生活習慣やサービス時での排泄チェック表を参考にして、利用者の状態に合わせて、自尊心にも十分に配慮してトイレへ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期、家での排便状況を把握し早急に対応している。乳製品を提供したりマッサージや運動を行い排便対策に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴できるよう個々の好みや希望に合わせて対応している。なかなか入浴につながらない場合でも浴室や声掛けを工夫し対応、時にはスタッフも一緒に入浴するときもある。バスボードも活用し安全に入浴できるように支援している。	浴室には2つの浴槽を設置し、全身浴が可能な入浴補助の用具も備えています。仲の良い利用者同士が入浴することもあります。入浴を拒む場合には、家族と相談しながら利用者の気持ちを優先し、次回の入浴支援に繋げています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や表情など読み取り、ベッドで休める時間をつくっている。泊りの不安がある方には寄り添い不安を少しでも解消できるように関わっている。消灯時間は決めず自由に過ごしていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容がわかるよう薬情を個人ファイルに綴っている。新しい薬が追加された場合は薬の目的や副作用をスタッフへ伝え症状の変化の観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事、できそうな事を把握し、自らが意欲的に發揮できる環境をつくり支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に合わせてドライブなど、随時行っている。本人の希望を把握し外出支援を行っている。	サービス時に利用者から外出の希望があれば、散歩や買い物、ドライブ等の支援をしています。外出行事は定めず、リアルタイムで桜見物や日帰り温泉ツアーを企画し、気分転換や五感刺激を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブへ行った際「家族へのお土産を買う」と称して買い物ツアーを行った。それぞれが、自分でお土産を選び、お小遣い内で購入することができた。今後もこのような機会を作りたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、電話の支援を行っている。希望がなくても本人の表情や想いを察知し、こちらから、声掛けすることも必要だと感じている。今後は手紙の支援も行っていきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音を出さないよう常に注意をしているが時々気配りが足りないと思う時がある。ゆっくりとリビングで過ごせるようテーブルの位置や座る場所を工夫している。食事はゆっくりできるよう、食後の食器はすぐにさげずのんびりとお喋りを楽しめるように努めている。	開設して2年目ですが、新築時の状態を保っています。共用空間はゆったりとした造作になっており、木の温もりが落ち着いた雰囲気になっています。クリスマスツリーが飾られている居間での昼食タイムは、職員と利用者の会話が続き和やかなひとときでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の利用者を把握し座る場所など決めて案内していたが、今は利用者自らが自分で座る場所を決めている事が多いのでその行動を尊重し対応している。その他、状況にあわせてスタッフが間に入り関わっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅での環境に近づけるよう、ベッドの位置やトイレの位置に気を配っている。自宅からなじみの物を持ち込み居心地良く過ごせるような対応を行っている。	宿泊室は9室設置されており、利用時は、表札を掲げています。自宅での使い慣れた物が自分の部屋としての認識となり、居心地良く暮らしている様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事、わかる事を理解し、自立した生活が連続できるよう支援している。		